

記念物
【天然記念物】

アサヒナキマダラセセリ

Ochlodes asahinai

指定年月日／1978(昭和 53)年 4 月 1 日
所在地／石垣島・西表島



撮影：田窪亮三

1962 (昭和 37) 年に石垣島米原にて、朝比奈正二郎博士により最初の 1 頭が採集され、その標本に基づいて、1964 (昭和 39) 年、白水隆博士によって新種として記載された。アサヒナキマダラセセリは、150 万年前ギュンツ氷河期の初期、アジア大陸と琉球列島が陸続きだった頃に祖先種が八重山に移り住み、その後、海によって隔離され、独自の進化を遂げたと考えられている。石垣島と西表島だけに生息しており、イリオモテヤマネコと同じく「生きた化石」と呼ばれる貴重な蝶である。

1 年のうち、特定の期間だけ成虫が現れるのは北方系の蝶の特徴で、同じ仲間の蝶がヒマラヤや中国の寒い山岳地帯に生息している。幼虫は於茂登連峰のような 400m 以上の食草リュウキュウチクが自生する山頂付近にのみ生息している。成虫は山頂付近から海辺近くまで移動するものと思われ、広範囲にわたって観察されている。

記念物
【天然記念物】

ヨナグニサン

Attacus atlas ryukyuensis

指定年月日／1985 (昭和 60) 年 3 月 29 日
所在地／地域を定めず指定



撮影：渡辺賢一

ヨナグニサンの生息地として与那国島は知られているが、石垣島や西表島からもわずかながら記録されている。インド、ヒマラヤからマレーシア、ボルネオ、ジャワ、中国南部、台湾にかけて広く分布し、八重山が北限となっている。

ヨナグニサンという名は、日本では与那国島で初めて採集されたことから松村松年博士によって命名されたものであるが、それ以前はオオアヤニシキと呼ばれ、与那国島ではアヤミハビル（綾のある蝶）と呼ばれている。その名の示すとおり、羽根は赤褐色の地に暗

褐色や白、薄い黄色などをあしらった美しい模様をしており、突出した先端は蛇の顔のようにも見える。また、広げた羽根は 24 cm にもなる世界最大の蛾である。

幼虫はアカギヤモクタバナ、キールンカンコノキ、ショウベンノキ、フカノキなどの葉を食べるが、開発によって食樹の多くが切られ、1980 年代には絶滅が危惧されたが、食樹を増殖することによって個体数はある程度回復している。